

<平成28年度 ハローオリピズム事業>

オリンピック教室

実施報告書

埼玉県 三郷市立栄中学校





現行の学習指導要領は平成21年（2009）4月に公示され、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されました。そこには、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容に、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会等は、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていること」とオリンピックの意義が明示されております。

これを受けて日本オリンピック委員会（JOC）では、平成23年度（2011）から、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエールド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められております。このようなオリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることも期待しております。

「オリンピック教室」の授業は、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。また同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

平成23年に施行された「スポーツ基本法」の前文の一部に「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習する内容は、まさにこの基本法に記された精神や態度等を日常生活の中へ具現化することを後押しするものであると考えています。



- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成28年4月～平成29年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 40校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1時限目
運動の時間（50分）



2時限目
座学の時間（50分）



※学校の通常の授業時間をベースに実施

※運動の時間と座学の時間間に10分の休憩時間があります。



1時限目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備運動（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備運動



主運動
（作戦タイム等を受け、
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」等
を伝える



グループ（個人）ワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます



- 期 日 : 平成28年7月11日 (月)
- 場 所 : 三郷市立栄中学校
- ク ラ ス : 2年1組 (40名)、2年2組 (39名)
- オリンピアン : 室伏 由佳 先生 (陸上競技・ハンマー投/円盤投)
- 授業のながれ : 運動の時間 (1時限、3時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



2. 準備体操



・アテネ大会に出場するまでの過程を紹介した後、今日の授業ではオリンピックの価値を分かち合おうと授業の目的を確認。次の座学の時間では運動の時間に感じたことをみんなで共有し、自分の中に取り込んでほしいと伝え、準備体操に移る。

3. 主運動



・3チームに分かれて8の字跳びを実施。それぞれのチームで3つの競技名決め、競技名を順番に言いながら跳ぶ。3つの競技名を1セットとし、90秒間に言えたセット数を各回終了後に発表。

・各チーム工夫した点を発表した後、作戦タイムを設け、セット数を増やすために協力できるポイントを探す。

4. まとめ



・主運動を振り返り、それぞれのチームが課題を意識できたから回数を伸ばすことができたのではないかと話す。
 ・座学の時間では室伏先生の経験に基づき、「相手を肯定すること」の大切さを伝え、みんなが壁にぶつかった時、どう対処するか、目標を成し遂げるために必要なことをオリンピックバリューに当てはめながら伝えたと予告して、がんばったお互いを拍手で称えて、授業終了。



■ 授業のながれ： 座学の時間（2時限、4時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



2. オリンピックの価値を伝える



- ・運動の時間の感想を尋ねた後、アテネ大会予選の映像を見せながら競技紹介。アテネ大会に出場するまで苦労したことがとても多く、出場することができて本当によかったと話し、室伏先生の経験を聞きながら印象に残った言葉や後で考えたいと思ったこと等をメモしながら聞いてほしいと伝える。
- ・北京大会に出場するまでのエピソードを紹介し、相手を尊重し、自分自身も肯定することの大切さを伝える。

3. グループワーク



- ・日常生活や運動の時間に感じたオリンピックバリューを各班で考えた後、代表者が発表。
- ・運動の時間ではコミュニケーションや競争を通して勝ちたい気持ちや相手を尊重する気持ちが生まれた（エクセレンス、フレンドシップ）。味方を信じて支えること、友だちの協力があるから上を目指して努力できる（フレンドシップ）。憧れののようになりたいという気持ちから行動が生まれ信頼に繋がる、お互い思いやり尊重することで実行することができた（リスペクト）等の意見が挙げられた。

4. まとめ



- ・言葉は相手に何かを気づかせることもできるが、傷つけたり、励ましたり、落ち込ませることもある。と言葉の大切さを伝え、考えて書いた言葉は心にも残ると話し、書いた言葉を忘れないでほしいと伝える。
- ・疑うこと、比較することも大切だが、まずは受け入れて、その中で相手にとって一番大切なことは何かを考えるよう心がけてほしい、そして相手を肯定することを必ず続けてほしいと伝え、授業終了。



実 施 内 容

- 期 日 : 平成28年7月11日 (月)
- 場 所 : 三郷市立栄中学校
- ク ラ ス : 2年3組 (39名)
- オリンピック : 荻原 次晴 先生 (スキー・ノルディック複合)
- 授業のながれ: 運動の時間 (5時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



2. 準備体操



・荻原先生から自己紹介をした後、1ヶ月後に迫ったリオデジャネイロ大会や4年後の東京2020大会で期待している競技や選手について生徒に問い掛け、注目しながら応援してみようとする。自身が出場した長野大会の写真を用いて自己紹介とスキー・ノルディック複合競技を紹介。スキーの魅力伝える。運動の時間は皆で元気に体を動かそうと話し、準備体操に移る。

3. 主運動



・8の字ロープジャンプを実施。引っかかってしまっても続きから数え、90秒間に跳べた合計回数を競う。練習タイムを設けた後、チームメイトと握手をして気持ちをひとつにし、1班ずつ挑戦。全員で挑戦している班を応援し、声を出して回数を数える。

・各チームの挑戦後、回数を確認し、荻原先生から回数を増やすために、縄を速く回すか1回ずつ正確に跳ぶか等を考えながら挑戦するようアドバイスする。

4. まとめ



・8の字跳びの結果を発表し、一生懸命取り組んだ全員を拍手で称える。結果から学ぶことはたくさんあると伝え、次の座学の時間ではオリンピックが大切にしている3つの価値について話すと予告し、運動の時間を終了。



実 施 内 容

■授業のながれ：座学の時間（6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



・映像を用いて、オリンピックに出場した時のエピソードや双子の兄 健司氏について紹介。アルベールビル大会とリハナムメル大会で金メダルを獲得した兄と間違えられ悔しい思いをした。自分を兄と間違えた人に自分の存在を知ってもらうために兄と一緒にオリンピックに出場することを目指し、長野大会でその目標を達成できたことを話す。

2. オリンピックの価値を伝える



3. 個人ワークとグループワーク



・日頃がんばっていること、努力して「やった！」と思えること、友情を感じる時、敬意、感謝の気持ちを感じる瞬間等、普段の生活の中で感じることを個人で考えた後、各班で話し合い、どのオリンピックバリューに当てはまるかを考える。
 ・各班の代表者から発表。テストで勉強の成果が出た時、試合に勝てたこと（エクセレンス）、友人に相談に乗ってもらえた時、困った時に助けてくれたこと、チームプレーで試合に勝てた時、応援してくれたこと（フレンドシップ）、学校の伝統を受け継いでくれた先輩への敬意、友人や家族への感謝の気持ち、自分にできないことができる人（リスペクト）等の意見が挙げられた。

4. まとめ



・オリンピックバリューはオリンピックだけのものではなく、皆の日常生活の中にも存在しており、目標の達成に向けて「がんばること」がポイントになるため、結果を出す過程で意識してバリューを実践してほしいと伝える。
 ・時にはつらいことや嫌だと思えることもあるけれど、いつか必ずよかったと思えるようになるので、好きなことをとことん突き詰めてやってほしいと伝え、授業を終えた。



■ 集 合 写 真

2年1組



2年2組



■ 集 合 写 真

2年3組



■ 記 念 品 贈 呈

2年1組



2年2組



2年3組



■ 証 明 書 贈 呈

